



木 木 木

千葉県 TEACCH プログラム研究会
2018年2月25日(日) 第94号

「森」字・佐々木正美
イラスト・竹蓋伸六

発行：千葉県 TEACCH プログラム研究会広報部

ホームページ：<http://www.5e.biglobe.ne.jp/~teacch/site17.htm> 事務局：千葉県発達障害者支援センターCAS 内 TEL:043-227-8557

～成人期の支援～



入所施設における視覚支援の取り組み(チームで行う視覚支援)

社会福祉法人 横浜やまびこの里 東やまたレジデンス 副施設長 木村重之 氏

その大切さをわかっているつもりでも、なかなか上手くいかないことが多い「チームでの支援」。どうしたら可能になるのか?!木村先生のお話にはたくさんのヒントがありました。

はじめに、三つ組みの特性、学習スタイル、感覚の特異性から、自閉症の方を混乱させないためには、チームで支援することが大切であると強調されました。また、支援の確認や対応の統一ができる点が、チームで支援を行うことの利点として挙げられていました。その上で、木村先生がチームで個別支援に取り組まれた事例をご紹介します。

◇事例を通して見えてきた、チームでの個別支援におけるポイントは・・・

◆自閉症の特性の理解とご本人の特性理解

この点を共通理解するように話し合いをすることで、支援の方向にみんなの足並みがそろう。

◆構造化したところから支援が始まる。

どうしたらご本人がわかりやすいか?今の段階でよりベターな環境をつくり、それをご本人がより使いやすいように日々メンテナンスする、それが支援である。複数の目による精密なアセスメントに基づく再構造化の繰り返しには、チームの力が必要。

◆「その行動が出るのはなぜか?」ご本人の目線で考える。

チームのみんなが情報を共有して本人像を再確認する際に、問題行動への対応だけに焦点を当てるのではなく、ご本人に「どんな過ごし方をしてもらいたいか?」を話し合った。

◆ご本人の得意なところにスポットをあてて支援する。

間接指示と自立性を重視し、職員の介入を減らす方向で、特定の職員だけでなく誰でも対応できるように支援を組み立てた。介入されずに適切に活動できることがご本人の自信となり、それによって安定した場面が拡がり、QOLの向上にもつながっていく。

◆ご本人に動機をもってもらえるように。

日課や過ごし方自体が、ご本人の動機がもてる活動であるか?それを見通しをもって、わかり易く、安心して、やりやすくするには、どんな構造化が必要か?チームで検討した。

◆支援はつづく…

ご本人にとってわかり易い伝え方と、適切な行動への動機づけという視点から、対応の統一と職員間の情報交換が行われ、定期的なチェックとリニューアルが繰り返されることで、個別支援が維持されている。また、ご本人が出来る活動を増やすことで、少しずつでも生活のグレードを上げていくことが、支援者に求められるところである。

質問コーナーでも、個別支援会議を開くことが難しいという話題が挙がりました。木村先生は、東やまたレジデンスでのチームの人数や、会議の日時を決めてその日は全員が揃うように勤務を組み、会議も勤務に充てる等の具体策を提示し、意識的に会議を開くことを力説されていました。



平成12年の秋、千葉県のTEACCH研究会の立ち上げから関わってきて

17年半が過ぎようとしています



今年度最後のティータイムでは、昨年12月9日に行われた佐々木正美先生のお別れ会の模様をご報告したいと思います。日本全国からおおよそ300人くらいが、東京のホテルグランドヒル市ヶ谷に集いました。私たち、千葉県TEACCHプログラム研究会会員の方達も参加されていました。

一人ひとり献花をした後、先生とご親交のあった方達が、壇上に上がられて、先生との思い出を語って下さいました。先生の大学時代、そして児童精神科医としての歩み、ご家族の歩み、そして先生のお人柄などをあらためて知る機会となりました。私たち千葉TEACCHの会員の坂本さんと角口さんも壇上に上がられ、先生との思い出を話されていました。

親御さん、発達障害、自閉症療育やTEACCHに関係する方達だけではなく、先生の著作である「子どもへのまなざし」に代表されるように、一般の子育てに関係する幼稚園や保育園の先生方も多くいらっしゃり、お話し下さいました。様々な方々から慕われ愛されていた佐々木先生…、和やかな会になりました。

このお写真は、横浜市自閉症児・者の親の会の方が撮影されたものですが、1枚は、奥様の洋子さんが、ご結婚当初のお話を写真をご紹介しますしながらお話されているところです。

昨年の広報に「佐々木先生を偲んで」という私たちスタッフのメッセージを掲載させていただきましたが、今回最後の実践セミナーでは、先生への想いの動画「佐々木先生のまなざし」を皆さまにお届けしたいと思います。皆さま、来年度もどうぞよろしくお願い致します。



平成30年度 TEACCH プログラム研究会 総会・第1回連続セミナーのお知らせ

日時： 5月19日(土) 12:50-13:20(総会) 12:20 受付開始
13:30-16:30(セミナー) 13:00 受付開始

会場： 千葉県教育会館 大ホール (千葉市中央区中央4-13-10)

セミナー内容： 「自閉症スペクトラム (ASD) の理解と支援」 (仮題)

講師： 内山 登紀夫 氏

(よこはま発達クリニック院長・大正大学心理社会学部臨床心理学科教授)

【編集後記】 前回のセミナーでは、チームで個別支援をすることが支援者側の動機となり、支援技術の向上にもつながっていくというお話がありました。木村先生のおっしゃっていた「支援者側がワクワクしてくる」ような支援をモットーに、取り組んでいきたいと思っています。(岡村)